

浜松市立佐久間中学校

令和5年度 第4回 学校運営協議会

<次 第> ※全体進行：教頭

- 1 日程説明
- 2 会長挨拶
- 3 校長挨拶
- 4 議長の選出
- 5 前回会議録の確認
- 6 今年度の学校運営協議会の取組
- 7 熟議
 - ・学校関係者評価について
 - ・来年度の学校運営の基本方針について
 - ・学校運営協議会の自己評価について
 - ・夢育やらまいか(CS 加算分)について
- 8 浜松市教育委員会教育総務課から
- 9 連絡

日 時 令和6年2月16日(金) 14:30～

会 場 佐久間中学校会議室(2階)

▶ 学校運営協議会委員一覧

高氏 秀佳		笹野 訓子	
平賀むつみ		馬場 真弓	
古尾 春子		向坂 美保	学校支援CD
奥山 和子	学校支援CD	山本 巖	
鈴木 千穂		北島 祐介	

▶ ディレクター

海賀 志美	校務アシスタントと兼務
-------	-------------

▶ オブザーバー

大見 芳	連合自治会長	坂口ひろみ	民生委員・児童委員
鈴木 孝	協働センター	長谷川陽子	佐久間図書館

▶ 年間の学校運営協議会の日程

済	第1回	4月11日(火)	
済	第2回	7月4日(火)	※総合的な学習、探究活動への支援を兼ねる
済	第3回	10月5日(木)	
本日	第4回	2月16日(金)	

▶ 生徒数および教職員一覧

年組	男	女	計	家庭
1-A	2	6	8	5
2-A	2	2	4	4
3-A	4	4	8	8
合計	8	12	20	17

1年	主任	恩田 晴久
	A組担任	河邊 友希
2年	主任	森本美穂子
	A組担任	藤田 至真
3年	主任	内山 博文
	A組担任	西尾 隆広
	副担任	内山 亜結

校長	西田 亮	特別活動主任	河邊 友希	非常勤講師(美)	永田真菜実
教頭	瀬戸 一志	いじめ対策コーディネーター	西尾 隆広	非常勤講師(技)	伊藤 卓宏
教務主任	高原 英樹	発達支援教育コーディネーター	森本美穂子	非常勤講師(家)	丸山富貴代
生徒指導主事	西尾 隆広	道徳教育推進教師	藤田 至真	校務アシスタント	海賀 志美
進路指導主事	内山 博文	防災リーダー	瀬戸 一志	図書館補助員	中尾すみ江
研修主任	恩田 晴久	保健主事	三井 由里	スクールカウンセラー	野島江理奈
事務主任	宮崎 誠治	教育の情報化推進教師	河邊 友希		
養護教諭	三井 由里	用務員	堂森恵美子		

▶ Memo

--	--	--	--	--	--

▶ 令和6年度学校運営協議会開催予定

月	日	曜	会合名	時間	備考
4	5	金	第1回学校運営協議会	14:30~16:00	・入学式のあと
7	2	火	第2回学校運営協議会	13:30~16:00	・総合的な学習の時間、地域学校協働本部との交流に合わせて開催
10	24	木	第3回学校運営協議会	14:00~16:00	・授業参観あり
2	14	金	第4回学校運営協議会	14:00~16:00	・授業参観あり

※入学式…令和6年4月5日(金)13:30~

【学校教育目標】

こころざしをもち 共に高め合う生徒



校訓
真 志

【目指す学校像】

一人一人が主役となって輝く学校
安全で安心できる 温かな学校

《中学校区の目指す子供》
志をもち、自分らしく
遅く生き抜く子供

かかわる力

多様な意見を受け止め 多様な見方ができる生徒

- 自分と違う考えの他者を受け止め、多様な見方をする事で自己の成長につなげる。
 - 他者との対話的・協働的な学びを通して、広い視野や多様な視点で考える。
- 中高一貫教育プログラム 大学との交流
地域学校協働本部との連携・交流

みつける力

自ら働きかける気概をもち 実践できる生徒

- 自分の役割を責任をもって果たし、集団に貢献することで自己有用感を高める。
 - 何事にも全力を尽くし、新たな課題や目標を見つけ、それに向かい計画を立て実行する。
- 中高合同体育祭 文化活動発表会
校則・制服見直し 立志式

ふかめる力

未知の状況にも対応できる実践力をもった生徒

- 自ら課題を見つけ、他者との対話を通して思考を深めながら課題解決に向かう。
 - 学習や活動を振り返り、自分に向き合い、自身で学びをコントロールする自己調整力を身に付ける。
- 「自分時間」の設定 データサイエンス講座
ST終日探究活動 ICTの有効活用

かなえる力

新たな価値を創造し 自己の成長につなげる生徒

- 学びを将来の自分や実社会とつなげて考え実践に結び付ける。
 - 郷土の「人・もの・こと」に学び、郷土を大切にしようとする気持ちを実践に結び付ける。
- ふれあいバス存続のためのアルミ缶回収
STリサイクル

身に付けたい4つの力

連携型中高一貫校

保護者・地域に“信頼される学校”

- 少人数の良さを生かし、一人一人を大切に教育活動を展開する
 - ・生徒理解を基盤とし、気持ちに寄り添う温かな支援
 - ・「認め・励まし・鍛え・伸ばす」をモットーに、生徒一人一人が自分らしさを発揮し活躍できる場
- 地域・保護者との連携・協働を推進する
 - ・学校運営協議会を生かした「地域ぐるみ」の教育活動
- 組織的な教育力「チーム佐中」で学校を動かす
 - ・「前始末」と「協働」によるチームとしての学校運営

生徒にとって“魅力ある学校”

- キャリア教育を核とした教育活動を推進する
 - ・すべての教育活動においてキャリア教育で身に付けたい4つの力の視点をもった教育活動
- 「自律した学び」を創造する
 - ・他者との対話をもとに思考を広げ深める生徒
 - ・ティーチャーからファシリテーターへと変容する教師
 - ・ICTを有効に活用した学習者主体の授業
- 小規模校ならではの特色ある学校づくりを推進する
 - ・佐久間分校・水窪中との中高一貫教育の充実
 - ・郷土の「人・もの・こと」を題材にした探究的活動

社会に開かれた教育課程

地域ぐるみの人づくり

佐久間中学校運営協議会

中学校区青少年健全育成会

令和6年度 学校評価項目 (学校関係者用)

仮

1 そう思う 2 ややそう思う 3 あまり思わない 4 思わない

1 目指す学校

①	学校は、生徒一人一人の個性や気持ちを大切にしている。 【一人一人が主役となって輝く学校】	
②	学校は、安全で安心できる場所である。 【安全で安心できる温かな学校】	

2 目指す生徒

「多様な考えを受け止め、多様な見方ができる生徒」・・・かかわる力		
①	生徒は、自分と違う考えの他者を受け止め、多様な見方をしている。	
②	生徒は、自分の思いや意見を表現したり他者の考えに触れたりして、広い視野や多様な視点で考えようと努めている。	
「自ら働きかける気概をもち、実践できる生徒」・・・みつめる力		
③	生徒は、自分の役割を責任を持って果たそうとしている。	
④	生徒は、何事にも全力を尽くし、課題や目標に向かって計画を立て実行している。	
「未知の状況にも対応できる実践力をもった生徒」・・・ふかめる力		
⑤	生徒は、自ら課題を見つけ、協働的な学びを通して課題解決しようと努めている。	
⑥	生徒は、学習や取組を振り返り、自分が得意なこと（できること）と苦手なこと（できないこと）を把握し、学習の仕方に調整や改善を加えようとしている。	
「新たな価値を創造し、自己の成長につなげる生徒」・・・かなえる力		
⑦	生徒は、授業で学んだことを、他の教科や日常的な場面で活用し、知識をつなげようと努めている。	
⑧	生徒は、郷土の「人・もの・こと」に学び、郷土を大切にしようとする気持ちを持っている。	

3 佐久間中の生徒にどんな力を身に付けてほしいと思いますか。(任意)

令和5年度 学校運営協議会自己評価表 記述のとりまとめ

<本年度の目標>

「キャリア教育で身につけたい4つの力」を土台として、本校の生徒につけさせたい力を見直し、それを各教育活動で着実に育成できるようにする。

<評価項目1> 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- ・基本方針の内容を理解し、共有できた。
- ・わかりにくかった言葉が、わかるように説明されたので、これまで理解できなかったことがある程度理解でき、委員の合意が進んだ。
- ・校長の説明を聞き、その時点では内容について理解できるのだが、全体的に把握をして建設的に議論することは難しい。
- ・学校目標の「…郷土に貢献できる…」は、少し狭い感じがする。
- ・生徒の学習のあらわれから、目標にどう向かっているかを話し合うことができた。
- ・学校からの説明を聴き、疑問や不明なことについて質問がされ、十分に理解された上で活発に議論されていた。
- ・校長から、キャリア教育の視点から「育てたい力」について丁寧な説明を受け、生徒の地域や学校における実態・課題等について活発な議論が行われた。
- ・学校教育目標については、生徒が将来社会に出たときにたくましく生きる姿を願うものでありたいという要望が出された。
- ・率直な意見を述べ、しっかり協議し、取組について納得し、協力していこうという気持ちになった。

<評価項目2> 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- ・協議会で決定し、実施した学校支援活動について、振り返りや反省が十分でないと思う。
- ・生徒たちは、S Tでの活動を中心に、自ら地域の課題や良いところを見つけ、それを地域の方と一緒に取り組むことで、学校という枠の中だけでなく、広く見ることができていた。
- ・生徒のS Tへの取組から、一人一人が自分の役割を果たそうと頑張っている様子がうかがえ、少人数の良さを活かして個々を大切にしていることが分かった。
- ・生徒の地域に関する学習について、委員のそれぞれが意見を伝える場を持てて良かった。
- ・キャリア教育として身につけさせたい4つの力を意識しながら生徒の活動を見ることで、視点が明確になり、話し合いが深まった。
- ・実施した学校支援活動に対する、各委員の感想や反省、意見が共有されたことで、今後の協議会全体の取組の確認につながっている。
- ・グループワークを行ったことでより具体的な意見が多く出て、興味深く話し合うことができた。それにより役割分担ができ、地域の方々の活動参加につながったと思う。
- ・地域の人・こと・もの、といった教育資源が十分活用された教育活動が展開されている。今後、生徒数の減少、地域の高齢化がさらに進むことへの対応・研究・工夫が必要となる。
- ・学校・家庭・地域のつながり、学校支援活動について、役割分担の見直しが見直しができた。
- ・生徒がS Tで自ら設定した課題を探索し、学校外でも情報発信をした。地域住民への課題提起や情報提供にもつながった。このような形まで到達したことは熟議の賜物と思う。

<評価項目3> 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- ・十分な情報発信が行えていない。
- ・回覧板で発信することで、町全体に取り組みを知らせることができたと思う。
- ・地域の人たちに、少しずつ理解してもらえることができてきたと感じる。今後も継続・検討・発信をしていきたい。
- ・環境整備についての広報では、広く伝わり多くの人に参加してくれてありがたかった。
- ・学校だより、ホームページ等、学校からは十分な情報発信が行われた。
- ・自分も地域で呼びかけをして、それに対して多くの協力が得られ、良かった。生徒たちからの情報発信(中天駅やさくまの里での掲示)にも地域の方々は注目している。
- ・回覧板の学校だよりにより、生徒・学校や学校支援活動の様子が分かった。
- ・学校だよりや支援活動の依頼文書の回覧により、活動に参加する地域住民が増えた。

<評価項目4> 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標(取組の重点)

- ・学校運営協議会の取組が保護者には十分理解されていないので、何かうまく知らせることができるといいかなと思います。
- ・数年の中で、少しずつ理解できてきたことがあるので、組織や内容など大きく変えずに、一つ一つを継続していき、変更が必要なときに、よく考えて見直しをしていけるといいと思う。
- ・今後の協議を生徒の姿をもとに深められるよう、今年度の目標を継続していきたい。
- ・今年度の取組は十分なものだったと感じている。今後も学校の方針に基づいて、同様の取組が継続されることが望ましいと考える。
- ・子供たちがたくましく生きる力の育成について、様々な課題や解決策等を協議会で話し合っていきたい。
- ・自分の力、そして人とのつながりが大切である。生徒がチャンスを生かせる教育を推進してほしい。生徒が委員の人脈や人生経験を自然な形で活用できるようにしたい。
- ・「4つの力」をさらに育成できるようにする。
- ・地域社会の高齢化により、学校支援活動の協力依頼が、今の紙媒体だけでは困難になってくるのではないかと思う。今一度、参加を促す広報の仕方を考えたい。

(様式2)

令和6年3月1日

浜松市教育委員会 教育総務課
学校・地域連携担当課長

浜松市立佐久間中学校
夢をはぐくむ学校づくり推進協議会
代表 北島 裕介

夢育やらまいか事業（CS加算分）報告書

夢育やらまいか事業のCS加算分の用途等について、下記のとおり報告します。

記

1 学校運営協議会からの意見

別紙「夢育やらまいか事業に対する意見書」のとおり

2 意見に基づき実施した活動等

No.	記号	事業内容	具体的活動内容
1	サ	ICT環境の整備	<ul style="list-style-type: none">・総合的な学習の時間の探究活動において生徒が撮影した画像のうち、一旦職員室サーバに保存したものを、購入した記憶媒体を用いて学習系ネットワークにコピーすることで、生徒がタブレットで活用できるようになり、成果の発表の際のプレゼンテーションを充実させることができた。・総合的な学習の時間の学習成果発表会では、ネット環境のない会場において、購入したケーブル等を用いてネット接続を可能にすることで、探究活動を支援してくれた企業や学生にもオンラインで参加してもらうことができた。

3 活動に要した経費

夢育やらまいか事業収支決算書のとおり